

新発売 **輝光** ネギ

てるひかり



「輝光」の特長

- ① 襟部が良く締まり、良く揃う。
高温期は襟部が間伸びして荷姿が悪くなりがちですが、「輝光」は襟部の締まり、詰まりが良く、荷姿がきれいです。
- ② 葉がコンパクトで、曲がりが少ない。
葉肉が厚く、丈夫なので管理作業や風雨による葉傷みが少なく、軟腐病などの病害の侵入を防ぎます。



千葉発!

千葉県のネギの作付面積は2,460ha(平成22年産農林水産省野菜生産出荷統計より)あり、全国第1位の産地です。野菜生産出荷統計の季節区分によると、春ネギは660ha(4月~6月出荷)、夏ネギは310ha(7月~9月出荷)、秋冬ネギ1,490ha(10月~3月出荷)に区分されます。このようにいずれの時期においても全国上位の作付面積を誇る千葉県の生産者は品種選定において厳しい目を持たれています。



収穫調整した「輝光」



2Lサイズによく揃っている。

千葉県山武市横芝光町(黒ボク土)

播種: 2011年4月1日 CP303 2粒蒔き
定植: 5月15日
止土: 10月22日
収穫: 11月下旬から
評価: 「輝光」は他社品種よりも葉が立ち、太りはゆっくり。在圃性があり、収穫期の幅がある。襟元の揃い、太りの揃いもよいので来年作付けしたい。



襟部が揃う「輝光」



「輝光」の立毛

千葉県山武市横芝光町(砂壤土)

播種: 2011年4月5日 CP303 3粒蒔き
定植: 6月5日
止土: 10月10日
収穫: 11月下旬から
評価: 「輝光」は葉の色がやや淡いが、葉が立性でコンパクト。襟部の揃いが良く、11月下旬から12月どりの品種として適している。また、来年は12月から1月どりとしても栽培したい。

てるひかり

輝光ネギ 栽培のポイント

夏どり栽培での注意点

「輝光」最大の持ち味である肥大性を十分に発揮させることが、栽培する上で最も重要となります。

① 土寄せと肥培管理

「輝光」は比較的伸長性が緩やかですので早生系品種よりも5日~7日程度土寄せ管理を遅らせませす。栽培期間を通じて肥料切れは良品出荷する上で致命傷となります。元肥の窒素肥料は控えめとしますが、1回目の土入れや削り込みからは過不足なくしっかり投入します。

健康的な本葉を常に5~6枚確保する。葉枚数が不足している場合は回復するまで土寄せを我慢するのが最大のポイント。



② 高温期の管理

高温期における土寄せはネギにとっては大きなストレスになります。節間が伸びすぎず、短すぎず、2~3cm程度に保ち、右写真のようにいつでも5~6枚程度の葉枚数を確保していることが重要になります。土寄せするときは一度にたくさん寄せすぎると地際が酸欠状態となります。また、葉が傷み、白絹病や軟腐病が発生しやすくなりますので注意が必要です。

高温期は葉の発生基部を絶対に土で埋めない。



葉の発生基部

秋冬どり栽培での注意点

夏越し性を高めるための排水対策と肥培管理が最も重要なポイントとなります。

① 無理をせず、健全な葉と根を維持する。

高温乾燥状態が続いているときにゲリラ豪雨に遭遇すると、最もネギが腐りやすくなります。乾燥時は無理な土寄せはせず、病虫害防除と除草に徹してとにかく葉と根を労わります。ゲリラ豪雨や台風は来るものとして、あらかじめ備えておきます。「輝光」は伸びがゆっくりなので従来品種より倒伏しにくい特性も持っています。

② 高温期の肥培管理

葉色はあまり濃い方ではないので少し色が薄い状態で夏を越す位がちょうどよいです。越夏後の回復は早く、葉鞘部も丸くなるのが早いので早期出荷も可能です。

③ 厳寒期どりの肥培管理

耐寒性があり、降霜による葉折れや枯れこみは比較的遅いです。しかし、伸長性はゆっくりなので越冬どりでは12月中旬までには必要な長さを確保する必要があります。



千葉県 1月20日の状態